

令和6年10月9日
河内長野市立長野小学校
校長 北野良和

令和6年度「すくすくウォッチ」の結果について

秋色の候、平素は本校教育のためにご支援ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。今年度4月に本校5年生に実施しましたすくすくウォッチの結果について、分析(成果と課題)及び取組みをご報告させていただきます。

1. すくすくウォッチの概要

[1]国語について

【概要】

本校の平均正答率は大阪府の平均正答率と比べて知識・技能では3.4%、思考・判断・表現では5.3%上回った結果となった。

言葉の特徴や使い方に関する事項では80%に近い正答率であった。我が国の言語文化に関する事項は50%をやや超える正答率であった。無回答は比較的少なかった。

〈特に成果がみられた問題〉

文を正しく理解し、指示語の指示内容を捉える問題では、90%以上の高い正答率であった。また、相手や目的に応じた適切な言葉に書き直し、文を整える問題や日常で使うローマ字を正しく読む問題でも、90%に近い正答率であった。

〈特に課題がみられた問題〉

書かれた文の意味を正しく捉え、適切な漢字を使って書く問題の正答率が最も低い結果であった。漢字の意味を理解できていないため、同音の漢字の使い分けができていない児童が多いことが推測される。また、故事成語の意味を正しく理解する問題では、50%程の正答率であった。3年生の学習内容であり、児童が普段の生活の中で使用する機会が少ないため、定着しにくい背景があると考えられる。

文中の助詞を正しく使う問題や文中における主語と述語の関係に注意して、述語の部分を正しく書く問題では、基本の問題では70%以上の正答率であるが、パターンが変わり少し複雑な問題になると55%の正答率であった。

今後、新出漢字の指導において、漢字や言葉の意味を丁寧におさえながら進めていきたい。また、意図的にいろいろなことわざや故事成語にふれさせる機会を作りたい。さらに、授業で発問の仕方を工夫し、いろいろなパターンの問題にふれさせていきたい。

[2]算数について

【概要】

本校の平均正答率は大阪府の平均正答率と比べて知識・技能では2.7%、

思考・判断・表現では5.7%上回った結果となった。「数と計算」「図形」「測定/変化と関係」「データの活用」のどの区分でも、大阪府の平均正答率をやや上回っていた。しかし、データを読み取る問題については、大阪府の平均正答率をわずかに下回った。

〈特に成果がみられた問題〉

補助線をもとに、図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を説明する問題は、正答率が大阪府の平均の約10%上回っていた。面積を求める公式は覚えて活用できていると考えられる。

〈特に課題がみられた問題〉

データを二つの観点から分類した表から読み取ることができる内容を、正しく理解する問題は40%を超える正答率であったが、大阪府と比較するとわずかに下回った結果となった。表を正しく読み取る力が比較的弱いためであると考えられる。

また、記述式の問題に課題が見られた。円と長方形の性質に着目し、その違いをもとにして説明する問題の正答率は17.5%であった。二つの条件のうち一つの条件しか満たしていなかったためと考えられる。ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを理解し、図や式を用いて、ある二つの数量の関係を参考に別の二つの数量の関係を説明する問題は正答率が40.8%であったが、無回答率が25%と高かった。

今後、必要なデータを読み取って活用する機会を設けたり、複数の条件を組み込んだ文章を構成したりする機会を作りたい。

[3]理科について

【概要】

本校の平均正答率は大阪府の平均正答率と比べて知識・技能では0.5%、思考・判断・表現では3.9%上回った結果となった。

「粒子」を柱とする領域や「生命」を柱とする領域は80%を超える平均正答率であった。しかし、「エネルギー」を柱とする領域では約60%、「地球」を柱とする領域では約50%の平均正答率であった。

〈特に成果がみられた問題〉

水が加熱されなくても蒸発して水蒸気となり空気中に含まれていくことを書く記述式の問題は50%を超える正答率であった。4年生の理科で、水蒸気の学習をするので、学習した内容がしっかり定着していたと考えられる。

〈特に課題がみられた問題〉

方位磁針の性質から地球の磁場について考えて、書き表す記述式の問題は24.8%の正答率であった。無解答率も19.8%であった。この解答の正答には、二つの条件を書く必要があったため、難しかったと考えられる。

今後、授業で、いろいろな条件を取り入れて自分で考えて文章を書く活動を取り入れていきたい。

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	45.2%
思考・判断・表現	37.9%

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	76.8%
思考・判断・表現	70.2%

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	67.8%
思考・判断・表現	56.4%

[4] 【わくわく問題】(教科横断的問題)について

観点別	学校の平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	64.6%
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	50.8%
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	65.8%
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	69.4%
E 興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	76.7%

【概要】

「自転車」「ダンス」「すし」という身近なものを題材にして、上記のAからEの観点に基づいて出題された。そのうち「A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。」については府と比べて正答率が高かった。「E 興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。」については76.7%の正答率であったものの府と比べて低く、課題が見られた。

〈特に成果がみられた問題〉

「すし」についての資料を読み取り、選択肢を比較・関連付けながら整理して、間違っているものを選ぶ問題である。子どもたちはそれぞれの時代の「すし」の名称とその様子を読み取りながら、選択肢の違いに気づくことができていた。この問題に限らず、「問題をとらえる」ことに関しては比較的よくできていた。自分の考えを作っていくために正確に問題を読み取る力が培われていることがわかる。

〈特に課題がみられた問題〉

「大阪ずし」と「江戸前ずし」の資料を読み取り、解答の図表内の適切な位置に選択肢や言葉を記述していく問題である。複数の資料から共通する情報を抜き出し、それを条件に合わせて表現することには課題が見られた。失敗を恐れずに自分の考えを書ける環境をつくりながら、相手に伝わるように自分の考えを書くスキルを伸ばしていきたい。

[5] 児童アンケートについて

〈特に成果がみられた問題〉

「家の中にホッとする場所がある」の項目では96%、「あなたは困ったときに相談できる友だちがいる」の項目では約80%と高い結果となった。このような結果から、児童は家の中で安心して生活できていることや、人とのつながりを大切に、学校生活を送ることができていることが分かった。また、「自分の考えをノート等にも書いている」の項目や「話し合いをするとき、友だちの意見を最後まで聞いている」の項目では、府と比較してやや高かった。普段の授業内で、児童が自分の考えを持ち、児童同士が意見を交換する場面が設定されているからであると考えられる。

〈特に課題がみられた問題〉

「将来の夢や目標を持っている」の項目では、府と比較して3.5%低いという結果になった。また、本校学校運営協議会では、この点や「新しいことに挑戦することは好きだ」の項目の低さについて協議した。授業を通して、児童が将来の夢や目標を持って努力する機会を与えていきたい。

「授業で学んだことを、ふだんの生活にかすようにしている」の項目では、大阪府を18.1%下回っており、学習内容を自分の生活にかせるように指導していきたい。さらに、「話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目では、大阪府を8.3%下回っている。話し合う学習では、この活動が自分の考えを深めたり、広げたりしている活動であることを実感させたい。

2. 調査結果を受けて

[1] 学校が重点的に取り組んでいくこと

今回のすくすくウォッチでは、記述式に課題が見られました。複数の資料や情報を正確に読み取り、条件に合わせて文章を書く力が必要であると分かりました。本校では、「考え、伝え合う授業作り～根拠を持って考え、書く力の育成～」を目指して授業に取り組んでいます。以下の5点を大切に引き続き、授業の中で、自分の考えを持ち、相手に伝え、自分の考えを広げたり深めたりすることによって、書き表せる力を育てていきます。

- ・自分の考えをまとめたり解決方法を出したりすることができる授業づくり
- ・言語活動や学び合いの中で、関わり合いながら高め合っていける授業づくり
- ・決まった時間に決まった場所で学習できる手立てとなる、家庭学習の手引きの啓発
- ・効果的な指導のために、児童の長所と課題について、学校全体での共通理解
- ・情報機器が効果的に活用できるようにするための情報モラル学習の充実

[2] 児童のみなさんに取り組んでほしいこと

・宿題以外にも復習をしましょう。

中学校に向けて計画を立てて勉強する習慣を身につけてほしいと思います。予習復習が学習の力ギとなってくるので、出された宿題だけでなく、自学自習する習慣をつけましょう。

・得意なことを伸ばしましょう。

情報機器を効果的に正しく活用し、身の回りだけでなく広く社会の様々な情報を収集し、興味関心のあるものを見つけ、主体的に取り組むようにしましょう。

・基本的な生活習慣を身につけましょう。

食事や睡眠時間だけでなく、ゲームやパソコン、テレビ等を見る時間も自分で管理しましょう。

[3] 保護者のみなさまにご協力いただきたいこと

・宿題のサポート

内容が高度になってくる分、理解度が不十分で宿題に取り掛かっても、自力で最後まで解けない児童がいます。宿題のサポートをしてもらえると、子どもが自信をもって登校できるようになるのではないかと思います。

・学習習慣を定着

アンケートの結果から、家庭学習の時間が30分より少ない児童が平均的に少ない傾向でした。家庭学習の手引きを作成して配布しておりますので、参考にいただき、一定の時間自ら考えずすんで学習することができるよう意識した声掛けや学習環境づくりをお願いします。家庭学習の習慣をサポートしてもらえると、中学校に向けて自分で学習するという習慣が身につきます。

・規則正しい生活習慣

規則正しい生活リズムにしてあげてください。特に1日3時間以上スマホ、パソコン、ゲームなどを使用している児童が多いことが気になります。使用時間におかれましても、ルールや約束の再確認をお願いします。

子どもたちが、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実に付け、各教科の学力に加え、ことばの力や文章や情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを身につけられるよう、ともに励ましの声をかけていきましょう。